

明日に 向かって

明日に向かって

多治見陶都ライオンズクラブ

広 報 誌

1998

Vol.

7

わらってる ないている

おこってる みつめてる……

あなたの目、けんこうですか？

「内輪に向かって、We Serve!!」

「親睦・友情をより一層深めるために。汗を出すアクティビティ！」を今年度の基本方針として掲げて6ヶ月たちました。計画委員の皆さんの努力により、各行事におけるメンバーの出席率もよく、楽しくクラブの運営をやってきました。メンバー全員に感謝申し上げます。が、五箇条の御誓文の一文に「官武一途庶民に至る迄、各其の志を遂げ、人心をして捲まざらしめんことを要す。」とあります。自己満足のままで終えないよう、心してあと半年頑張ります。皆さんのご協力を重ねてお願い申し上げます。

さて、クラブ結成より6年、ここでメンバー全員初心に戻り、ライオンズの誓い及び新会員研修セミナーにおいて教授されたことを思い出しましょう。

「我々は、知性を高め、友愛と寛容の精神を養い、平和と自由を守り、社会奉仕に精進する。」

「ライオンズマンとしての責任は、例会出席から始まる。」

多忙なればこそ、都合があればこそ、貴重な時間を割いて例会に出席すること自体が、既に奉仕である。

酒が大好きで、また麻雀も大好きな私ごときが申し上げても、説得力がイマイチではありますが、酒も麻雀も、ライオンズクラブ国際協会の目的の一つである「友情、親善、相互理解のきずな」をより一層強固にするための一手段であります。ご理解下さい。と、詭弁を弄するものであります。

会長 L. 丹羽 浩 康

☆☆

♡♡♡♡多治見市植樹祭♡♡♡♡ 平成9年10月11日(土)多治見市三の倉地球村にて

今年、多治見市植樹祭・陶都緑化祭が重なり盛大に行われ西寺市長始め、市及び県の関係者、陶都ライオンズ、ボーイスカウトその他一般の人々を含め、約1000人が参加して開催されました。尚、会場では自然観察会・バードウォッチング・スタンプラリーしおり作り・青空市場のさまざまなイベントがとり行われました。

保健環境保全委員長 L. 長谷川 幸生



☆☆

第5回環境作文コンクール *多治見・笠原各中学校より5校173名の応募をいただきました。*

5月から原稿依頼、9月には原稿整理、小冊子校正、各賞選定などを経て11月第1例会での表彰式をもって無事終了することができました。ご協力ありがとうございました。

さて、5回目の環境作文を終えて、子供たちの貴重な意見に対して我々がどのように答える事ができるだろうか、問われるのは我々です。

環境問題をメインテーマにしている、我がクラブの方向性をみんなで話し合う場(環境教育の場)を作っていくべきだと思います。

環境を普段の例会で、楽しく勉強できれば非常によいと思います。

保健環境保全委員長 L. 長谷川 幸 生

「子供たちに 未来を」

- *みんなで考える場
- *手作りの行動
- *他団体へのよびかけ

☆☆

今年の教育社会福祉委員会は、教育部門としては例年の通り、青年会議所英語弁論大会への協賛、青少年育成のための協力及び、小中学校九年間皆出席の表彰を継続事業とて行い、社会福祉部門としては、行政の手の届かないところで活動している団体グループへの支援を新規事業として行うことにしました。

今年度は、知的障害児者の保護者でつくる多治見地区手をつなぐ親の会が始めた陶芸サークル「ふりー・ねんど」と、自閉症の子供を持つ親たちでつくる「日本自閉症協会県支部多治見ブロック」を支援することとなり、十月の第二例会において、自閉症の会の方々に自閉症に対する理解や、会の説明をしていただきましたが、思う以上に会員の皆さんにご理解いただきました。各紙マスコミにおいても大きく取りあげていただき、継続して支援できることを期待されています。最初は深く考えた訳でもなく、単に一般的にあまり知られていないところで、がんばってみえる方々に少しでも力を貸すことができればと思いついた事が、皆さんに受け入れられて、とてもうれしく思います。このあと、「ふりー・ねんど」の方たちの紹介、皆出席の表彰等と、会員の方々にはご協力をお願いすることが、まだまだありますが、どうぞよろしく願います。

教育社会福祉委員長 L. 加藤 彰 久

☆☆

1997年度

夏期YE派遣生レポート

まず一番の思い出というか、私にとって一番楽しかったといえば、友人や家族がたくさんできたことです。誰もが、たいへん心温かく、ずっと前から知り合いだったような気がしました。帰国後の今もなお、手紙をくれたり、電話をしてくれたり、私も手紙を書いたり、交流を続けています。ただ一番ショックだったのは、想像以上に貧富の差がはげしかったことと、ほとんどの人が中国語を話すことです。

私がステイした家は、ライオンズの方だったので、比較的豊かでしたが、マーケットでは、とても小さな子供達が仕事とも言えない仕事をして、お金をもらっていたりする姿が見られました。また働くことができず、ただじっと座って恵みを待っている人もいました。日本ではあまり見られない光景だと思えます。

何故、中国語を話すことがショックだったかというのは、もちろん公用語は、マレー語だと思っていたからです。でも、マレー語を話すのはメイドさんたちがほとんどで、たいていの人は中国語を話していました。そして裕福な人はほとんど中国系の人たちでした。

言葉について、もう1つ言うと、ほとんどの人が3ヶ国語は話すことができるということです。これには驚きました。日本ではどうなの？と聞かれた時、少し恥ずかしい思いをしました。

また、失敗したことは、Fool(バカ)とFull(おなかいっぱい)と発音を間違えて、笑われたことです。I'm fullというつもりが、I'm foolと発音してしまいあとあと何度かひやかされました。

いろんなことがありましたが、本当に良い体験だったと思えます。ありがとうございました。

丹羽 雅子



☆☆

土岐川清掃奉仕活動 公衆安全奉仕委員会

委員 L. 小芝 邦章

1997年9月23日、前夜来の雨も作業開始頃にはあがり、ボーイスカウトの団員と共に、例年どおり土岐川の両岸の清掃奉仕活動に取り組みました。

今回で、3年目の継続事業であります。例年痛切に感ずることのひとつに、タバコ・ジュース等の空缶の投げ捨ての多いことが挙げられます。

豊かさの中での公德心の欠如。大和民族のかつての美德は、どこへいってしまったのだろう、等と思いながらゴミを拾いビニール袋に入れておりました。

ボーイスカウトの面々も、上級生に指導されながら、空缶等を拾っておりましたが、今の子供社会にない縦のつながりの大切さをも再度認識した数時間でした。

是非続けていきたい奉仕活動のひとつです。



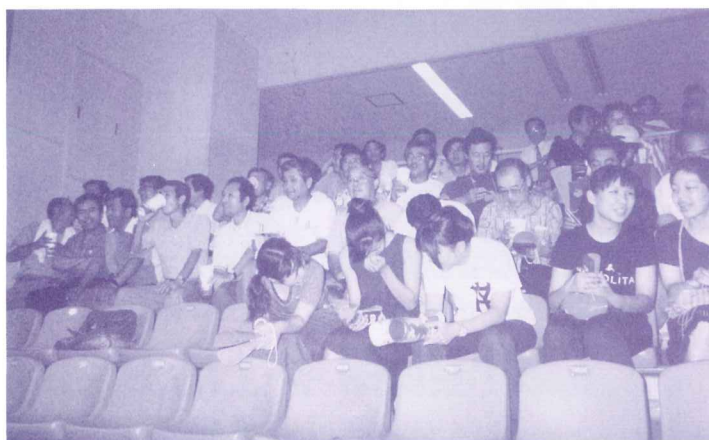
☆☆

「汗を流す社会奉仕活動をしよとう言う！！」

会長幹事理念の元に福祉施設への勉強とふれあいを自ら体験しながら、また、内輪に向かって、より一層のウィーサーブができればと思ひ福祉例会の計画活動に入りました。

最初は多治見市役所の福祉課に山田ライオンと行き、どこの施設が奉仕作業出来るのかを聞きました。多容荘もそうですが、一様に国の結んだ施設は掃除から、メンテナンスはしっかりしていますから、そのような奉仕活動は必要ないですと断られました。そんな折りに、多治見陶生苑なら以前尾関ライオンが車いすを寄付されてあるとのこと宮本ライオンから聞き、早速現地に出向きました。万字施設長にお会いして何か我々に出来ることはないかとお訪ねしてお願いしたところ1時間位陶生苑の現状をこう話され、園内の案内をしてもらいました。その後我々陶都ライオンズの事情を理解してもらい職員たちの手のまわらない庭木の剪定、または草むしり、プランターの整備等色々あると言うことであの様な計画をいたしました。

汗を流す奉仕活動を、今後とも陶都ライオンズの仲間と共にウィーサーブの精神で続けていけたら人生の喜びと思ひます。また、日曜日にもかかわらず何の道具もないところ自前の掃除道具、作業道具等持参して作業していただいた皆様には心より感謝申し上げます。
計画委員長 L. 若尾 円三郎



☆☆

新入会員 一 言

ある日、突然、水野忠男ちゃん来社。何か嫌な予感。でも先輩がお見えになればコーヒーの一杯もお出ししなければと思ひコーヒーを出す。いつものように長々と世間話をする。ああ今日は時間潰しに寄られたのかな？と思ひきや、帰り掛けに治実、なんでもええでこれに書いて〇〇日までに事務所まで持ってきてくれ。それからというものの文才のない私にとって地獄の日々、ゴルフをすれば尾関先生、村井さん、学さんに取られ、麻雀すれば取られライオンズの、WE SERVE精神を教えられた数日でした。

何でもええで書けとおっしゃった忠男さんの言葉を信じて少し会社のピーアールをさせていただきます。大型から二輪車まで全ての教習を行っております。お子様、従業員、お知り合いの方が免許をお取りになる節には一言声をかけてみて下さい。ここ数日で教えて頂きました I SERVEの精神で免許取得のお手伝いを誠心誠意させていただきます。

L 若尾 治実

新入会員 紹介



L 寺澤 孝明
平成9年6.20入会



L 若尾 治実
平成9年7.4入会